

滅びの宣告

ホセア書13章

イスラエルよ、わたしはあなたを滅ぼす。だれがあなたを助けることができよう。(9)

ホセアがこれまで語ってきたとおり、北王国イスラエルの滅亡の時が近づき、アツスリヤの王によるサマリヤ包囲が始まったときに、これらの言葉が語られたと思われれます。

ホセアはここで主による宣言を語ります。「イスラエルよ、わたしはあなたを滅ぼす。だれがあなたを助けることができよう」。主はこれまで幾度もイスラエルの民を赦し、彼らを滅ぼすのをとどめてこられました。けれども民は主の恵みを忘れ、主を捨てて他の神々を慕い続けました。「その心が高ぶり、わたしを忘れた」(6)と。それゆえ神はついに、民に対する態度を変え、彼らを滅ぼすことを決意されました。人々は自分たちの国の命運が自分たちの神に対する信仰にかかっているとは考えていませんでした。預言者たちがどんなに熱心に悔い改めを勧めても、今の自分たちの生活には関係ないとして真剣に耳を傾けることをしなかつたのです。悲しいことに、彼らは自分たちの滅びを通して、主こそ真の神であることを知らされることになるのです。主の恵みと憐れみを軽んじ、主を捨て続けて生きるとき、主もついにその民を捨てることを決断されるのです。

主はわたしたちにも語られます。あなたがたがどうして滅んでよかろう。背ける者たちよ、わたしのもとに帰りなさい、と。招いてくださる主のもとに帰ろうではありませんか。